



六中だより

～自主・勤勉・共生～

7月号

令和4年7月5日発行

港区立六本木中学校

校長 石原 嘉人

甦れ 六中魂！



校長 石原 嘉人

6月11日(土)に第24回運動会を開催することができました。今年度の運動会は、3年ぶりに団体種目を取り入れての開催です。昨年度ムカデリレーを少し練習してはいますが、3年ぶりということは、在校生は誰も先輩たちが取り組んでいる姿を見ていないこととなります。生徒たちにとっては、手探り状態で取り組んだ運動会となりました。

いる姿を見ていないこととなります。生徒たちにとっては、手探り状態で取り組んだ運動会となりました。

生徒たちが考えた運動会のスローガンは

甦れ！ 六中魂！！ ～**We are today's HERO.**～

スローガンの通り生徒たちは、コロナ禍で途切れてしまった「六中魂」を甦らせようと係活動や競技に取り組んでくれました。私は、開会式で「君たちがどんな六中魂を見せてくれるか楽しみにしています」と話したのですが、生徒たちが見せてくれた六中魂は「全力で取り組む」「キビキビと行動する」そして、「周りを和ませてくれるパフォーマンス」でした。

運動会の団体種目に取り組むにあたっては、クラスの中での不協和音もあったとは思いますが、それらを乗り越え、運動会当日生徒たちは素晴らしいパフォーマンスを発揮してくれました。

今年度の運動会では、多分に本校らしい風景がいたるところで見られました。ケガをしていたり事情があって運動会に参加できない生徒たちが急遽スターターをしたり、放送アナウンスをしてくれました。特別支援学級の生徒たちは、交流クラスの一員として通常学級の生徒たちと一緒に競技に取り組んでいました。できることをしっかりと取り組むということが六中生のいいところです。

今年度の運動会も、生徒座席の間隔を確保する必要があったことから、保護者の参観は3年生の保護者に限定させていただきました。それでも143名の参観があり、生徒たちの活躍をご覧いただけたことはよかったと思っております。参観することができなかった1・2年生の保護者の方には、全種目をビデオ撮影して、翌日から3日間にわたって順次公開してまいりました。生徒の様子をお伝えしたくて昨年度から取り組んでいることなのですが、保護者席から見るとよりよく見えるという言葉もいただいています。各係の合間を縫って教員が撮影したものです。楽しんでいただけたら幸いです。

本格的な学校行事を行ってみて再認識することは、「生徒たちは、このような学校行事を通して様々なことを学び、成長していく」ということです。人との接し方。やさしさや苛立ち。全力で取り組むことで得られる達成感。一生懸命取り組んでいたにもかかわらず失敗してしまうという小さな挫折感。仲間と協力して成し遂げる充実感。これらは全て、一生懸命取り組んだ人でなければ味わうことはできません。これからも、感染防止対策を講じながら学校行事を進めてまいります。

第三高女と六本木中学校

先日 Twitter で、第三高女の方が訪問され、貴重な資料をお借りしたことを紹介しました。第三高女の時と現在の六本木中学校は全く異なる設計で校舎が立っていますが、二階の渡り廊下で校庭側や正門側をご覧になり、当時の面影があると話されていました。

第三高女と六本木中学校の関係をまとめると次のようになります。

「東京府立第三高等女学校」は、明治 35 年(1902)に“麻布日ヶ窪”と呼ばれたこの地に開校し、戦前は女子高等教育の名門として「浅草の一女(現・白鷗高校)・小石川の二女(現・竹早高校)・麻布の三女」と呼ばれていた。太平洋戦争時に空襲により校舎が焼失し、昭和 21 年(1946)に現在地である駒場(目黒区大橋)に移転。昭和 23 年(1948)に「第三女子高等学校」となったが、1950(昭和 25)年「東京都立駒場高等学校」と校名を変更して現在に至っている。

この地には、戦後昭和 22 年(1947)に港区立城南中学校が創設されたが、平成 10 年(1998)三河台中学校と合併して「六本木中学校」と改称。三河台中学の校舎にてスタートしたが、平成 12 年(2000)新校舎完成によりこの地に移転した。

この六本木中学校が建っているこの場所は、なんと 120 年にも渡って第三高女→城南中学校→六本木中学校と受け継がれている場所なのです。

校門を入ってすぐ左手にある大銀杏は 1910 年に府立第三高女の卒業生が記念植樹したという記録が残っているため樹齢は 112 年を超える計算になります。東京大空襲で、校舎は全焼してしまいましたが、この大銀杏は奇跡的に息を吹き返したと記録されています。

第三高女の方が書かれた文集をお借りしたのですが、その文集には次のような文章がありました。

見上げると、磨きこんだ木目、登り口が弓なりにすり減った階段、上から先生、上級生の姿、さっと端に寄り、替り際に下から挨拶、替り切ってから登って行く。日ヶ久保の校舎を思い出す時、まずよみがえって来る光景で、今もふと、その身のこなしをしている自分に気がつくときがあります。

これは、現在の正門を入れて校庭へ出る階段あたりでの一コマだそうです。上級生や目上の人を立てるお嬢様としての教育を受けていたことがうかがえます。

今の皆さんはどうですか？ 上級生・下級生分け隔てなく仲が良いのはとてもいいことですが、時と場合によってはこのように目上の人を立てる所作も必要となります。

また、第三高女に転校してきた方は、第三高女の印象を次のように書いています。

なんと活気があって、皆きびきびとしていて親切で、個人を尊重する自由な学校だろう。～中略～学校内での生活は、先生方も転校生を特別視することなく、クラスの方も自然ですぐお友達になり…

これは、現在と変わりませんね。この校風はこれからも受け継いでいきたいものです。

正門から撮った写真。銀杏は現在の場所と同じ位置にあります。 正門

